

# 女優の中村ゆりさんを襲った腸閉塞

## 保存的療法、手術で回復も高い再発率

女優の中村ゆりさん（44）が7月、腸閉塞（へいそく）のため来年1月から放送予定のNHKドラマを降板すると所属事務所が発表しました。腸閉塞は腹痛で救急受診する患者によくみられる疾患です。何が原因で発症し、予後はどのようなでしょう。

65歳の女性Aさんは10年前に子宮体がんで子宮全摘術を受けています。1カ月前の夕方、急に激しい腹痛が起こり、嘔吐（おうと）も2〜3回あり、救急受診しました。痛みは持続性で、強くおなかは張るものの、便もおならも出ません。血液検査では軽度の炎症を認めるだけですが、造影CT検査で小腸の一部が造影不良で腹水など絞扼（こうやく）性腸閉塞の所見がみられます。

緊急で手術を受けると、ひも状の癒着物で60センチほどの小腸が締め付けられ、一部が壊死（えし）しています。その部分を切除し再建しました。術後経過は順調で1週間後に無事退院しました。退院時に看護師から、腸閉塞は再発しやすいので、日ごろからおなかの調子を整えましょうとアドバイスされました。

腸閉塞とは腸が狭くなったり（狭窄、きょうさく）、詰まったり（閉塞）して、腸内容が流れにくく通過障害を起こした病態です。腹痛や悪心・嘔吐が出て、排便・排ガスが止まります。

### ■みぞおちに波打つような痛み

小腸と大腸、どちらも閉塞することがありますが、腸閉塞の4分の3は小腸閉塞です。症状はへそ周辺やみぞおち（心窩＝しんか＝）部）を中心とする波打つような痛み（疝痛、せんつう）が多く、小腸閉塞では初期から嘔気や嘔吐があります。大腸閉塞では、初期に排ガスが止まり便秘や腹満（腹部膨満感）などの症状が多いようです。

1年間にどれほどの人が腸閉塞にかかっているか、正確なデータはありません。欧米の文献や診療報酬データから、日本では年間約12万〜13万人が腸閉塞で入院していると推測されます。高齢者の発症が多く、最も多い世代は60代後半から70代です。やや男性に多いものの、ほとんど性差はありません。

閉塞を起こす原因で多いのは、腸管の癒着や大腸がんなどのがん、そしてヘルニアです。手術の既往がある場合、その 8 割は小腸の癒着が原因だといわれています。大腸の腸閉塞で多いのは S 状結腸や直腸など左側の大腸がんで、70 歳以上の高齢者の大腸がんの 3 割が腸閉塞をきっかけに見つかります。

治療の原則は腸管の安静です。絶食絶水にして点滴で脱水を改善します。胃腸にたまった消化液を排泄（はいせつ）し、腸管を減圧する目的で鼻、あるいは肛門からチューブを挿入します。腸閉塞の 8 割がこれで改善します。ただ、入院を要する腸閉塞の約 2 割には手術治療が必要です。

注意が必要なのは、腸に血液が流れなくなる絞扼性腸閉塞です。絞扼性の場合、発症から数時間以内に緊急手術が必要です。持続する激しい腹痛や反射性嘔吐があると絞扼を疑い、血液検査に加え造影 CT 所見などを参考に判断します。腸閉塞で亡くなることは比較的まれですが、絞扼性腸閉塞では死亡率が 1 割を超えます。

腸閉塞のもう一つの課題は、保存的治療で改善しても再発しやすいことです。1 年で 1 割程度の人が、5 年で 2 割の人が再発します。手術で癒着剥離（はくり）をすると、その頻度は半減できますが、また新しい癒着ができます。手術回数が多くなればなるほど、腸閉塞を起こしやすくなります。難しい問題です。